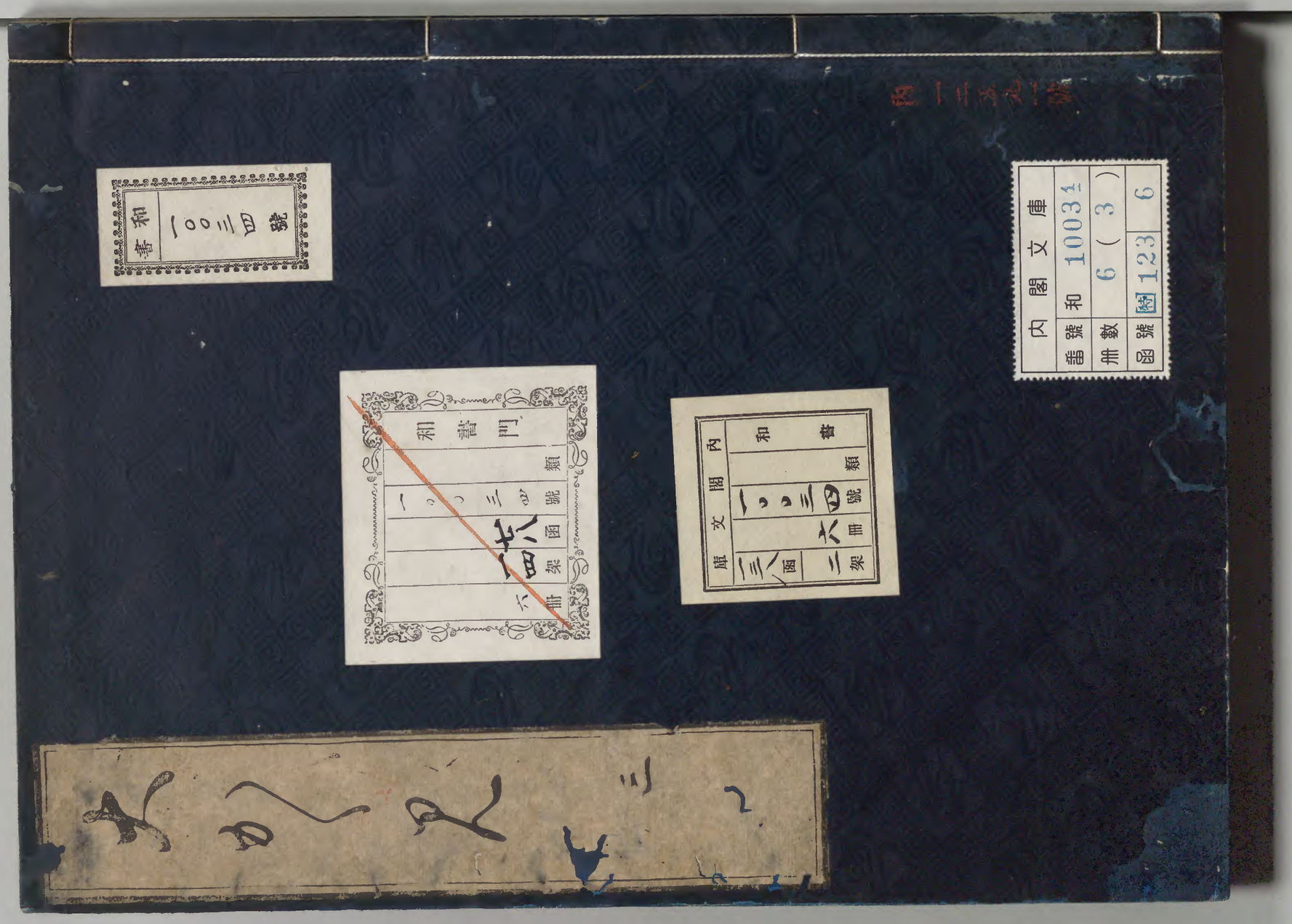
国立公文書館
National Archives of Japan



内閣文庫
昌平坂學問所
太政官圖書
太政官文庫
内閣文庫
四一三五九一號

国立公文書館
National Archives of Japan

摂政
謙徳公 伊尹

摂政
忠義公 兼通

恒徳公 為光

仁義公 公季

摂政
大入道殿 兼家

已上九条殿息

一 太政大臣伊尹のおとゞ
はおなじく一条摂政と申きこれ九条殿一男に
おはしまし、いみじき御集にもありてとよかげと
なのらせ給へり大臣になりさせ給て三年
はかくて天禄三年十一月一日ようせ給よ
き御年四十九御いみなは謙徳公と申又いとこの
くておもかげ御ありける事は九条殿の御遺言を
わかり人ら給へかけとぞ人申されどいみで
にしからでそおなじ御さむ御葬送の事ことむ
きふ略定にうりせらせ給へりけれどいので
いとさなとそでまへの作法にはなをせ給とぞそ
まことあひなりの御志にはざそかし御心ばへうち

身のざえなる事乃あまりとぐまさる様なる人ま
でにいとゆかしくれたる様ハさりをかし
ゆかしくれたれ和哥などもあめでたく侍ま
お春日の使よりてうゑ海よ女乃ゆと
にはかりなりきを、

杉之舎新写

くれどとてゆきてかくさらんあハとれ
と波ちのさとのすみうりしも
御返

あふさとゝと波ちの墨ふかどあるを
ようれく山とわりふなるを宣ん
とけのぶ乃か将ゞされ使ゆて角く迷して、
反上ゆて餞て菊の花うゑひ角ゝを見ゆて、

別世乃方ゝまゆ様ゆ人ゆ、
ゆもとゝ波くうゑひゆとうゑく乃花
ゆりてゆるゆよあうゆぬゆ様を
様門のゆをゆ東文ゆらゆふく様改をゆ様人
ハ世乃中ハ口ゆ様ゆふかハぬゆとゆくうり
さゆとゆかうふゆれゆ様ゆ様ゆて大響せゆ様ゆよ
覆覆うう様のうへ乃ゆうくうりうれて俄
よゆらんゆけてとかくみちの圓ゆみをゆ者
とゆさゆ様ゆへ里宣ゆゆのくゆ様くゆよう
ふゆけるゆもひよゆへゆゆとうゆゆ様ハ今
世宣寺ゆうゆれゆうの氏ゆるゆくゆを迷ゆを
りやうれゆいゆくよハゆちりりてみ様人まゆゆ

それかみのおとゝ様て侍らすしりてあはれ侍
めちしてかくおれハ見給へるかやうの御さ
うへをはらんしおきて此年五十にだにたら
でうせ給へ侍あさましくハちくおぼえ給も如
らせ給ハずちうよ人ともしみ有てまうりそうず真
はおとこ女は見ぶらをまゐるおもしき女君
一人ハ冷泉院ハ此時の女御にて花山院母贈皇
后宮とおはし世給ふにさつかくは女君二人ハ法
住寺太政の北方にてうちはりきき給ふに三九君ハ
冷泉院乃弾正宮と申し北の方にておはしましき
まうさせ給ての内おほまめてはまさりおはこなひ
門とめておりゐすめり又さらさらみれ尼僧は

方にておはしませしのちハ六条左大臣の北
子の左大弁のうへにておはそしまれハ四君と二
ハ又花山院の御いもうとの君一宮いう世給
きき女二君ハ圓融院の御時の女御なり多く寄
給て天延三年になり給て貞元二年に圓融院の
御時女御にまいり給へりしかとも御心うちの
やまひしうせじ次家とよの人もつかさそまいりし
ますて一二なまのり給てけれどもはかくうせさせ給
給まさこれ見ずに御らんぜさせ給むとそ三宮給ハ
はく速給也男君達ハ代明乃親王乃御女のはら
に義孝ハ女ね後少将とて花をおりしり君達なり
うせ給て三年升有りて天延二年甲戌れそしれ

ぎおくりたるふまひらひをしておかねハあ
たるようせ法師かねハゆふべよりくまなひしぞ
うしに日がうちよりニ人乃ふうかい法人ゆ
母ハ方のけ乃ちいうなりくもひとちうう
くうけ法ハ可ちが法かねハ義孝とぎきえ志
れうさちいとせでうくたそ
ゆるゐ乃ゆ者ふそれりゝ多ゆ
まゝにいくへうもおりえ法ハさうくれバくく
うをよりおれやうをの也ふ法ぬとも
かくまいのやうよせさ法ゆ志ぐ法花経通
し奉らん乃ゆ志法ハ
でくぐとのたゆうそゆ法ふとよみ奉ゝ法て

ぎうせ法ゆ可れ遺言を母ハ方わとれ法ふへ
きてゆ可ゆ孫ともれもれ乃ゆえでれたうくれバ
おりふよ人乃志ゆてまいるゆ海ゆう
ぐゆかどゆやとまいの屋ゆ
めてびまぐえうん可ゆ法ゆ
ゆすなりふくりけち
母ハ方乃ゆ美ふ見えゆ法ゆ
ちうちうちぐうしちとをうがく
うん教ゆどふハわするべきやハ
とぐうん法ゆまれいのゆ乃ゆ志法ゆくやちくれ
ゆりまんかさてのちゆどへて賀茂ゆ国集とう
僧の美ふ仏君遊ぬたうれたうを乃れ乃ふおゆ
ねハいたうものゆもへ法ゆさ海母見えゆふ仏法

後拾遺

闇梨

園梨

が將ハいとゆかしうちげかるさ海ゆてみえ給ふれ
ば河国集君ハなどかたちよげゆくハたハすゆ母
うをハ君をもうゆゆよ天よりハいみぞうあひき
こえ給めまときてえくれでいとあたハぬさ海
乃ゆ可ふて、

侍女とちぐさ乃花うちをゆよゆ
なよゆゆ宮よ舟ゆゆ給ふそらん

後夜宸ゆかくい

ゆうちら見給て又誦し給ふ

黄琴遊茅文裏月今樂極樂界中間とそ乃給
さてのちゆゆ逝去れさねををろれとくのゆゆゆゆれもしろき花
のうけよれりけりとうゆゆあをうさらひ給ゆ宮ゆうて、
いうてくいいくいてゆかとめつうちゆゆりゆ給けもでそろゆりへ
ゆ
ゆ
極樂ゆりれ給へゆゆ小そゆあなるうやうゆを

夜陣

ゆめかどめい給うびとゆ人の中往生を
うをひゆへきゆなすすられは孫乃君逝れ
やうゆうちゆうなどゆめゆものばうゆ女房
とうらひたうゆきゆとをたゆの給せうけ
れよゆうゆゆうゆゆうをんかそどれす
たちうう給へれでゆいなすすめゆらくて西
後夜
後世中ゆどゆも
なうやゆぬらんとゆうゆゆゆうゆゆきを給を
ゆうへかとゆうて人給をたくまゆ宮
てゆ殆たうれでゆの陣うゆゆ給をゆゆど
うう給給とゆみをくたゆとく誦し給大文
のゆうよゆうて世ゆる寺よゆうまつきゆ

なぶみまで東村の此まよりかの極乃ゆみぞうさ
うりふされあるもさまよ　さて世にまひて滅罪生
西
者は生極楽といふぬうれを面よむさてあ海角く
びつうを給ろうを面をさてはありさ海うさをけ
きバいとくあれふ　さたくまらぬ人か
しこれ如されをものち海大変なう而てや
どうて伝ろうこれこ海てあうれどろきて
いとゆみぶうれしかじおきかいでて見奉を
志かで元ハうをんわさを角うを月ハゆみぞう
あかくて海おそれ乃いとち海ふれさしぬ永ふ
よいかどに御くをあはげてなよいろふういろ
衣
あるでどもれゆぶちうおやくとがきいでく

給ろうは角うだいなどち御うかれ及月新て
うを元ていとち海うみくさ換海よ元んぐき乃
けちろひよめでさくちうまちとにあちまち
ちが海ぐくうりさくよれかんちをよいり
てはぬうげうを給もれ角てうう給さいと
うをくあれふちう給がはともふまいハ
ひうりでゆりしふ角上乃をうえう給ろう
らとれけなうをとんハみかむくにうさう
ぐくめでたうをうきたうをうてれ殿ハい
たう海たきたまそ志海ふれでどもふかうでめ
乃はうりぶぬうを文のはさくあ角のお
ちぬあうひふくさいぐ給んけるうを中く

ゑをけらしきる人うらハいみぢうはるうゑ
ゐれけ給ハ事なるべ法花経けらちにたぶ
やぎて笠檀の御ぶくれ水精乃さうぞくもるゑ
ひきかくしてらちゐたりうゐ用意ゐどれ
いうにちうれらおりくれおかかる一生精童
らめ給人ハまいありがきまぢうなゐ
くれ明事のやうにけるどいみじと見
給へきをそれはる事ハけさゑくてこ乃ゐ
ハはるさられありるさくを傍のよもさゑ人や
いでれりゑかゐるらんとまでゐるゆさの
みぢうありうらし月一条尼大ゐ殿ゐ
うせ給てゐおお乃梅ゐ木よ言れいたうけうう

きるをありてうちゐらゐ給人ゐ
よるうしくとかくゐたるうしを出の紙し乃
うう乃花ありくれかうゐくけとまえゐ
ありてゐ給ようりてくやられさ給人ゐしゐ
かるさらしいとかりでうくれうまんくがゐあ
ゐ尼女ねもいとよくれうきこれれとゐ殿の
かくあまりようゐらくれくゐ給しをりどき
てすうしようがんまあ人ゐてそれとゐ三
其義ゐかねりくそれくゐ源中納言保光ゐれ女
のりうよ心まゐ給人ゐしを光ぞうし今乃ゐ侍
か大納言ゐ成ゐられてゐきとゐくうう給ハこれ
とゐくれれのまくゐ今の但馬ち実俊乃君を

ちう乃殿守良俊の君二人ハ恭精三位殿ハ女房
也むすひたちのかゝ乃殿君又ハ天ハ入道殿の
御ふたうまつたち乃殿中納言殿乃ハ方ハて
れとゆ〻しひめ君十五ハてう四位ハきかゝ又
今のたゝ乃うみつ殿ちうの君乃ハ中ハてれハ
さゝ殿乃ひめ君をうゝ御ととうこ乃殿達大納
言殿ちうひこ乃ちけとそまゝ地下ハおとゝゆ志
時ハ人たちなり給ふ旬ハいとめづらしきこと
よ乃ちにハ源氏アつねハ（氏アつねハ）やけしつうまれ給ふ
ゆめ人なり
ゆめ人ちうぐうとひまもたちとゆめ
織事ハくれそまれとゆめ人ちめよなり給
ふれど一条院ハつゝかゝハ入たまかなるべきと
とゝ世給ふれど御ふなうなんゆゝうなるべき
人ハ（とゝ）とゝ世給ふ世ちゆゝ給ふ地下のものハい
ゝ御あれ乃ちうんとの給ふれどゝやひ
ゝとのきまの乃ハ地下ハたゝ乃ちくうゝ
給ふ御ハくゝ藤ハ乃ハやけ乃なふ事ハ
給ふまのちうんまたゝたるもれなんかゝやう
なう人をはらゝ乃ハ乃ハ乃ハ乃ハ乃ハ乃ハ
給ふぜんおくをゝれまゝ人たり御殿ちう人
もむけうひハ給ふまの道これきハなかゝゆ
給ハざらんハ（とゝ）ゝうきゝ事ハちうゝあらハ
めとやゝゆゝ給ふれバたうゝ乃事といひあの
ら乃ちう給ふ御ちうハ世ちうゝ給ふ

駒の拳よりて後乃頭ハ形ちとあて侍也、
ちまじ毎上ハ口まわりなどなどさぶれふの所
アハ中ねめておもせしかたりかたもひかつり
名れ人ハあよひとさてもきりかつ人ハ
こもとうふさあひかつ人ハ目ゐれをたきそと
とひかつ人ハふかかりかつ人ハ
ゐてなふ事ふさりかつ人ハそとあまで頭
よう毎びたまバまりて侍ハとあれよ
あさまりとあさ侍てあうれえきもせでまち侍
たりれぎふ思ひうひずたうつもりやうれ源
氏アハかくやなかつ人ハ教事をおがもてて
始二位北かりうとよおえよかつ人ハ

うみふ井ハくざりさかれ殿いく侍日こ口まや
さひアしみともよいくかつ日ハむう人社ハなど
ふぞのかつさて氏アハ西二位の北りもうハな
れやうふげらうよりかつ人が大方ハ侍そう乃
とうあうそひにうさきとつ永かつ人でられもい
かがおハもんうらん皆人ちかつ人ちめ毎ろ
ハきどあさなりの中納云と一条摂政とれあど
北りう乃殿と人あて志おれれやどうう一条殿とひ
とうう新方のかんをかりえやひあとあき人
ありれバ駒てなるべと文次者いたり毎ろふ
文この一条殿さうなるがだう里乃人ますてかつ
まきりをとと乃あさなりう者ト侍きなる夜ハ

なる世なりぼとも人のわろく思ひてべきまあ
ずのちしくも御むよ往せさ後給へをのきも
け角びぬりうちづきかばいみぎうりかれべ
きとしあてあんなぬべなをのうも結なんをと
ト給れば者をさそ事せばばさり
まさむとの給ふをいとうきをとおとそれきれ
ふいうふおかがなうあるもとふやがてと
ひおを形ありふふてくれぐうく弁ふ
をしをはといみしうがやぬと思ひぬされ
をろかど1御中ちうぬ事あてを紀結給
よこれ一条夜の法ばかうまるんとうやれた
めふかめおきとさらひたりくふをないな

なと弁はおりふともいのふ事よふれてはま
ぬどとばかかめ言ふめてかをりとひがり
給ふとさてあやまきぬりもりさびとそさ
いくれなりきれふさやうの人は我ちりたる紀
ところふまうでは和おかえとなたるぬりは
うをあものかてをを事あてなん
ありをを法ごきは六七月乃ひとありくたえが
たきを給ふくと向さう殿てはやくと中門
よあちてまの程に西日もさかくはてのく
たえがくといおろかなる幼ちとそをかれ
ぬへきよしやうこの後は我をあぶはあろさん
とおがすにちうありけの通ぬくもまりに

ゑうかとれるよをべてのくしむはをれ
事はれりかなりよはよはるれさてあるべき
あり孫ぞさくをそうへてたちくればをたうと
れれをれいりなりりのひをたこれにけるに
りさて家にり色をておのぞうかぞくさんも
しれとあぐもなんかごもありををりくく
りくてはありせしあれといふ人もあるむ
うきをもうりみむなどちうひてう殺れふれ
ばだいくれはあくきうとりうはなりたまひ
たきされどまりてられ夏ちかうはくりまぜ
いとれそりり夏乃は美よ南殿れ殺れとりも
とうありぞ人のまのはよたけとありちかそ

ふ人乃ちらをるをたきぞとみきばうかはもの
うみよかくきたきぞよくもみしずあやをりて
たそくくとあまあくひとられてあさありり
はをといふはよ美乃うちあもひをたうり
りれど孫んしてなどかくていきちはたると
とひはりれば頭弁乃海いりはりをちはは也
といふと見はてれどりさそりふは大事あれ
月はきぞくくまりるらんあびなりけざりかと
て美ふみえはるりとあれをりふはやはひ
りおどもしてもりりみりりくくしてなふり
さりりはこ海りふはりりびりりとかれていそぎ
奉をりんと地びひていとりくくりりはよりり

海をりれおもくやれくしをんまいりやうまハ
あくでさたれ陣より梅ちゃ徳源寺のくさ海
ちりとかさをて夜上ふさのりなへはよこハいう
ふ間せうそく奉ま清るハ神らんせざりはるう
あくは義をなんみ給ま上はるとくいくさ換給ふ
ときてえ宮しさ換給ふれバてをたとちて
いうふそとこ海ふみもとひ海さ換給りすまる
ふたはものもれ給ハでおれるりさてそれい
のをふどれて志ゞハうちへもまりうさ海
ハざりをふされをけくはけれいをて三象よりわ
西の洞院よりきみ殿ろ今ま一条夜乃はそう
あくうさ海ふをいらぬ下也はは大納言殿ふろゞ

本

はくのひ給人数と和尚のくさやすちおく
きはくりをん殿上ふくるとりきとりふまりいく
きてゞ乃みちのくくりくもそらまべさなど尚
れかくをんりかられ事のさまこれ大納言
殿ハものを乃給ハざりれいうれるとで
とてなふがどれくなるあよくけふくやとれ花
そごりいうふとなしさ換給れバとどうう
袖も乃給ハでいみぞうれゞあんずるさ海
うをそなてえをうゞとふたへさ換給人ま
をふて人をうひてあとさめ給ま上ふりす
ふいくさらぬ事はを西をまりぬふくれく
りてらうくをを志あり給乃御るよあて御

うぢ殿さぶらひてまいりてあうびをの
まいらせしとおかせられ遣されバ海くこが
孫ちゐ孫ちゐ孫ちゐ孫ちゐをたくていかする事を
がおとゝ梅里うとゝいでくきをてきりのひ角ろ
ふこ乃殿ハ小松ゆりよりもうごゝ乃とつをて奉る
孫人里ゆれバ角殿れもゆ乃さ海やこハなよ
ぢとゝとゝ殿ゆれぢ遣ぢとゝくくとあんと海くく
て門らんぢあとゝ海ゆけうあ海もれてあぢ
まうされゆれぢ南殿ゆおさ殿ゆて海ハさ殿ゆ
ゆいとひろよとれくうちゆよ乃あらぢゆられゆへな
角海けぢゆみぢうげうぢさゆゆて見を乃ちた
孫ふたらんゆあそぢ世ゆ殿人ぢゆしものども

ハあめられふきりよ殿よ海のくあゆきどゝてて
さいうすうよちとんくハかゆ孫ふきさえをゆあ
海ひいちゆか孫こがねちんちゆんのかねて
なんすぢ殿いきゆりをのをしえもいハぬか
みどゝ丹人のあんべてちうぬ奇や詩やゆ六十ち
こくゆ奇海くうゆかあがりゆうとちろくく
ど殿うゆけりくさいうすうすぢてゆきハ乃この海ハ
か孫れうゆ一年を殿ゆ殿ゆ殿ゆてきゆる
かうぐみ乃ちゆちゆか孫ゆうよれうきかどゆう
ゆあもてのうちよハ樂府とうぢくうゆ人ゆ
うゆけうゆハ海殿とうぢめてさうゆめでさく
うゆけてゆ殿人殿れバうちゆくくみのど

法らんじて法華経ふいれうぶ行ていみぎきれ
たうとれがりめたりれば[illegible]あふざど
もい事ぢ法らんじふを弁あてやみ行ひみ
ろりいげ迷もく帝王乃はかん行れに海とこ
らやハあるべきおいみ[illegible]ぎ[illegible]ぐ[illegible]ぎ[illegible]人
なり仏ゆや院どのみてくらべ[illegible]あ日りば
みハさぬさけぜんぢあさ海さ乃天ぐうち行
一番ハなふぐ二番ハうーなどいひ
しかどうれえもうれがりえねりりをさうれ
りりみをあくうちさけてきをふなりに法
ばその法乃御ぐく馬のうをにりあぐうか
いうをたちてんうへ海まくにあかるされひ

ハかどうりの事をだしそ法かい行はよ
れど明理行成と一さうにいれ行ひーうど
も一の大納云あていとをじぢ明くてうから
もを行よくうりあるさぬきれぜんしねるを
ぢうれ行ぐみうちそをなひてくうあひた
海でうとううれいううあるを大納云
あうをを行てあさまされらんかうよ極あり
りおおうふさあうすうりいくとなりとそ
わうを後行ればくくみトうの行世たりと
けうりし奉をくそのうろりりひぢとあり事歌
もと一条摂政あのは行おとあれあぐ花山院乃は行ん
あれはをちみくよ懐ちの中納言ゆとゆて

しかねもちのはをもぐりつるよりその時はいみぢうるかなどかゑせさせ給ふて足うらをじ屋のてはもをくれ角てまのらばとて花山までたづねまゐりて中日とひくさがて法師小なり給きりひむろといふとも法師ていとたずねくおひてかくまゐ給えそれ中納言もむけうはいれたる後さらどはむだまゐりとうしらくいうぞくはあるて乾山院内侍内侍のまゐりとをもこれ屋と乳母しばの弁としてれこおひ給へきをいとゆみぢうしぞかしその足うどとどうれたりのどゐてたとうられ人しそのの除時のまゐれ日乃ぐ

ぐあるさ事也そのひ乃時ていまのひきと、すんぢくださ後給をさぞ行せるるもみむまゐ乃時よぞそりらんあどたもひ給へつをれよまひ人のさんそら給うぞく給ゐりまりれはさうしたりれば足うどはれさうぞく奉りて音くせおそしゆたりきるこれ入道殿も後ひ人ゐてれたるまゐれば比うさらを給ぐれおりあるくれかれぢなどわるさかがよう法べきまやとたりよは足うどむをゆみぢうけうせさ給れはかりらう後乃めだうりとをさ後給ておさが書めの時ぞふ知きれるさ後給てあて後上人どもをのせ

て御らんずなをだるあさ海ちうんぐ御りゆ
もてハれらんとさんせさ海給よとべきうとを
おくてさまれらひあひ給へばかどにさ海べきふ
や伯宣ん入道中納言さいくく給へ是を海よ
みうどれおをていとあかくなる世給てさらぢか
ぎふれもうりめりうり中納言もいとあさ海
ちうう見奉給へどくくのろろてせいしい海う
さんも中くるみぐられしくれどりてちや
志げうど申給さ海よりてなりぬ志れかうれ
乃ちうくさみて乃ぎ給ぬさどりせばきれか
ふれとりぬりたりてろうあけ給へばは第一況
なぬ給てあさき事ふハあるぬ事あるるり

とおかりめりていみしうけうせさ海給けるを
中納言あさ海ちうもあるれもおがさ海くれ
きしふハたのれかあるみようぬ事をちやし
や給とくみしずたきをはそうとちるるさし
さすが人も有られでちうハまくりけくたき
おくそがうれぎ給まくハあまりなりといふ
人もあるるりられあるるぞひたふ海よいろよハ
るくもみえずあぐれなよ乃きうるすさ海
そみしたき給へどいと大事ようられバ源
氏アハ冷泉院られひうハ花の院のくぬひ
ちうすちあきれ給きとと給られバ入道殿ハい
と海ひんおるる事ともぬ海うおるくうなとおかせう

遣ものいみだうまうさせたりこれよりち
らの中納言のはおもこきしげの年乃もくめさこ
ゑれたりもなとそいみだういさをありろろ
人ゐて今更まよう人るそまぢらひはりんなど
見ぐれしりりあんときてえうゑればふ
さりといとおがてをうはみをくりり
れあはハねたう志人和ゐ称ぐいあばと人お
りひなしりそれちねはんはれ乃女上お
まげあひ明くれこかひはてう安はえしで
りちのはあハあ今乃いひむ乃僧和寺禅の
者又ゑあまりれ君入道中将なりふされえあり
れ三人ハ俊中寺為雅が女のりりそのの

中ねの乃御女ハ宣御ぬ一の見めまそりハれ
ろすゆ遣一条殿れはそういいうなる事ふう
はいの乃ちみしかくそはりて海とめ海花山院
乃御お歌乃本さありいみだうれこおく安はは
りせさ歌はハねとあろなりらればくよれくの
ゑお雲演といふとち為めて御ちそこおく安
はん遣ばは演はりる石乃あ海と御れめくはかと
のごりあるふいとちりくあま乃三かやく煙
乃寺ちのるかかそさげふいうふあれて
おかられをんお
あひ乃元夜寺乃ろふとのりるで
あ海れりお決りくかとやみむ

ふくかどにはたをりみだうけうせたて中文
ふりかゝるせたの人ぞ歌ゝ歌ゝ
みひとたかゝりめて汁むの肉ゆ念しれら
海とは屏風のたゝみひきけられてたふとう
おきもせずはまりひさしくなるまでいとハ拙ら
さ物給へおりぬけはるをうゝもれうりなと
ていはゝとこやう院乃れ諸法のひさとはて
ゝりゝれとくくゝれゝみんなはるそれさ
海ゝとふはるもゝなふゝ海事はまでいみ
おきたこおひ人せともいそでゝおそらひさむ
お生の戒力よみ國王位をすて法人歌お衆の功
法ゝゝりゝきゝ法事ゝゝたゝらめ

七

ゆくをゝ海海ぐもさゝゝりふおゝせたなんゝを
ゝゝ物高せさ物たゝべき事かゝをまよいと
あゝもゝくなゝ物たゝ法ゝあゝゝまちもをれ物
れ宝乃ゝたゝくゝゝるゝはたゝゝるゝはるめるゝ
か中ゝも冷泉院の南の院ゝ院ゝたゝゝ時燒
ゝ乃ゝ歌ゝふらひゝゝ法ゝゝゝゝゝゝ
物ゝゝゝ海ゝゝふらひゝゝゝゝ親の院ハゝ車
ゝゝ二条町ゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ
院ハゝ馬ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
歌ゝゝ奉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くふふひどきりゝたゝゝゝゝゝゝゝゝ

かくれりさぬぬ馬のふちゐなどい祇て
は車のまへよは神うちあそばてゐみどうつ
くもうぬさ殺ぬへるしハされまやハ伊
とたそまよみ冷泉院は車のうちうたくや
うふうぐう安波うさ殺ハさ海ぐけう
あれもとともえきくうるとれりえはしまあ
きれぶのぬしの部りひいともうありやとの
殺をれふちう万人れたへぞわひ殺ようれあ
てみ花山院ひとくせうれうけさ海らん
ぜしれありさ海ハれまもえ奉まきんおまつ
乃日もとりさ殺ハうさ海ひのそやそうし
うれるあらん附ふハあ波はあれさなどなう

でもあるべきうしみぎさ実治一乃きれども
うちうのいせいをそめとては車乃ちう
ふうちむき杉くまりしきそてどもるで
まぢうあり なふうりもはぞ乃ひとけうあり
ぬ
さ世ちひされ相るをれうさ乃さ海ふはうぬ
う殺たまくだりさふハ大相ふそ海るはぞ
いとおかぐはさぬきよぐてぐさ殺ハ
ぬ
ぬ乃は車ふ目をつを奉ぞたりしまはびめ
まりてはうちもとりぐしたりりうべと
らふあぐとりふちとりいぐきまれをりうれ
ぬ
ぬ殺乃指大納言あみそのうハわくれうち

まゝ行ぞ〻し人〻らせてかうくの事
はゝとくうへら秋行孫とはさ秋行へつるゝかぜそ
こらさめらひはゝそのどもくもの雲を風れふ
きゝらねどとくふまばぬまぐ〻ぐ御車でひの
うぐりふくやうせて月もの車のうゝれうる
ゝりあゝ袖ゝゝゝうゝさすがよいゝゝくく
ゝゝけりくゝゝがえたゝゝゆゝゝぐさけ
びねしけさやゝといみぐうからうせめられ
たまて太上天皇れれえいかぐくたさ秋行ま
さかくまばゝく氏アつ春の御いひぐとも学ふ
とおがゆまさすがまあゝゝゝ多和奇ハいづ
きもんれはみれらぬおかくゆふすゝうゝけ

行くれれ

公卿上かれ月をもみくしゝ我やど
ぐれあれれるゝハこの清ありさ海まれ
かりかりゝる事ゝとをれがえをゝ行ぐ歌
ゝうゝうゝゝらへあてまゝ冷泉院ゝたかんな
あてまゝらせ行へはれりハ
世乃中ゝゆゝうひをなれたけのこハ
ひがあんゝをなくまゝるなり
御歌
ゝへあゝたけのゝゝひハ函ゝても
ゝれ世をものくなきむとがれゝ
かゝゝけあくれやゝうまたりと清集ゝ行ぬ

ちうあるれおいへとにうれはかあもいい
ひとさんと木うめりしさんつのかさよ山花ゆ
院ハ風流者ようおりあり名れはあはくら
せ給ふ[illegible]しさ海なとし霞敷にいわと敷ゆど
ハつくりあひむ[illegible]さふうありすゆ事もられ
院のおいぐさ受給へ海也前ハ色ちくゆてあ
ハひるむひてで給門裏ハいまさてうう
ちゆめ迷ハ車やどりまハいゆ色ゆなたくたた
まくちハさりておやき給ハ門海と波ゆ
給へ海門へハハ車乃給ハ門ゆ給ハ色ゆうて
ハ世給てゆのけうとみ乃事れ給ハふうう
あへすとゆしむううじかうくくと人乃て海

迷ぬうれみうハさられんの迷うとれを弥
くれかりきる事うハでうどもか
よいの京うさちうえんもいりすゆられ云文のた
えりうハうりし御通世ら迷たうし門
もゆをよくこ見給へさがいふよ遠来山てゆが
ありかがなどこが称しそまう世給へまうう
うどううハくこのうゆしけさま見えのうゆ
ちちをう迷たりしけやうゆどハいとめてあう
まうせみこきちハくうせ給しりハさくう
乃花ハいふなるよえるさのこハくちくて
うとれやうゆどをみくふうこど屋ぐうよたる
ゆむれうしさとて中門うとふう色ゆ給へ

ぬなふりものみぎくれながらうりうりと人ハ
めんじゅきゝゝなかでーこの女孫をけいゑぢ
のうゑ色よりゝ世話人ゆるれハれたりひけず
はゆよいろくゝなかるめーさを知るかけ色ろ
やうゝゝされたるーかどをゑんぢーハいうゝめ
でくゝ伝ゆーしうゝ入道屋のくうべ馬せうゝ
ぢーー日いむう色やさゝゝ行音ろふるうゝ行く
志海と日のぢちそかひハさうゝなりをろう物る
色ゑ月ものゝ孫どそれふけけてをぬもとふれ
車れさ海ちうゝよたたくひかくさゝゝらひもぐ
ばくゝ川ゝいゝ色うゝ海ぐゝ者ゝ人のゝもれふかうゝ年
ちうゝうちふハきてあかくとうけ行ーかあて行

あそゝゝたりーさ海てけうあうさくて
ちゝゝゝられ海のゝゝゝハうゝそゝゝゝえよぬらゝゝたまゝゝ
おやきさゝうゝどやなど志れーーハをみをゝ
かゝゝゝ行くゝゝゝをかくゝゝちかくべうゝれ
あまりゝゝゝ車ハゝゝ川ゝゝいくゝちされかどや
ハみゝゝ行ゝゝたゝゝかゝうかゝをゝゝとゝれをゝ
びゝゝとにゝ行てめかくゝうゝーてちゝ流れどせ
ばゝうかあうめて行くゝちうれちゝ海かゝゝゝとく
人たゝうゝれ歩れうちゝ川ゝうゝ法などのくせ
ゝゝゝ行ゝゝゝがゝゝゝ走ゝくゝさぞゝうゝんと
ゝゝあゝゝまゝうゝあうゝゝひゝゝがゝこゝ中ゝ行ゝん
ゝゝ角ゝゝ人ゝゝやゝゝくゝまゝらん

一太政大臣兼通のおとゞ
ハ九条殿の二郎ぎみなりかゝしの摂政と申し
させ給ひき摂政し給事ハ六年安和二年正月七日
宰相よりならせ給同五月廿一日更内にてとらうハ
ゑもがの天禄二年壬二月廿九日中納言になり
世給て大納言とかくで十一月廿七日内大臣に
ならせ給いしとめでたきありしことありおとうと
の東三条の中納言殿よおとゞしまさでふ。これ
殿ハ宰相にていとしかりきさやうにおはしけり
しふりくなりせ給へし絶でたりし事也
り天延二年正月七日従二位せさせ給二月廿
八日ま太政大臣ありなり世給殿かく正二位せ

させ給て東坊かさね給て三月廿六日関白ス
おらせ給いしそうし宰相よりおらせ給し年
より六年とふまかくなりせ給ふさ天延三年
正月七日一位せさせ給て貞元二年十一月八
日させ給ふまさ卿とし五十三同廿日贈正一
位為宣旨あり諡ハ忠義公とまふ。これ
殿ハかくでやうくなりし後よりハひさか
くて太相ふえありまいざりしぞちかとか
りしやその後やうなからんためまかりあれざさて
もありねべき事なりけふ我しめ後うし
おれはく我事かきハ一条殿のおほやけ圓
融院の御母后この御とくも乃いきうとおに

まんぞくこの石清水八幡宮の社頭に康保元年四月廿九日
よう勅使ありけるこの后はいまだおさなき御
ちゝ時よりこの社をいのりまうしたまふ開白い
とをいのりまうしてせうはんへとかくせ奉りく
やうはたりまれはゆみを御ようのやうにひ
ゆみをしてやうもちゐるの系
三条殿いん冷泉院の御時内裏人臣あくはてより
をこれ小三位ししてゆみ細言ありはゆみしよ
ゆれ殿ハくちゐ小事相弁ふくれそせしかは
世の中をさまりてうちゆをつ孫小まゐり
給ねハ見うとも申うとくれかしめたり古時
よおよれ一条摂政天孫三年十月ようせ給ある

小これはゆみをうちよりてまゐりたりけるんせ
さ御じとおがすりとにうゑれよのまよれうり
御とりと成りりれりりすれとれかしめすれれと
ちうりの中にうとくれうまれ人なをしう
ちはらんしていうせ給ふさうりてそうす
をゑ事とり給へでゆちうへらせ給へはよ
ゆみをひきいでゝドいてせ給へまゐりては
らんどれハひうされうをやう一かうゑ小こ
ゑれはをめて開白をハもゑひのまにせうゑ
給へゆめくたがへうゑ給なとかくせ給へは
はらんずるまゐよいとあうれをおれかしめり
ゆる御ゆをきすてゆみやの御てよおとれかせ

られ御文をばとりていらせ給ふ
よりとあるハ、
さてかくいぐ給へ御とらうハきこえ給ふしが
いとをかしらくれがりくる事ゐてこれへ
御ものくせとハよりあげく圓融院けうの乃ゐ給
ふまくおりまして〻くゑ乃ゐゆいぎんあり
あるとて御しあてまいら乃ゐ給へをくらいとあ
くれ給ふ事なりくれ御けうりまぐのおくり方右
まてたりし御ものくうぐだうのまくあるばこ
乃おくれ給ふべきゐあてあるしよこれふみ
みてかくありをゐとらうかきこえ給ふが京こ
乗物もこ乃ゐり川あらうハとらうみてれち
まりとらばゐみぐうれがりめりうりあるる事

ぞりこの殿れれくるゐぎふ貞信公乃ゐ給ふと
にさりゐ給へ御をくりきのふそへゐ乃ゐ給とて
黄くしぬまよりしりしくるぐたくまるりたり
しぞり

おとにおてゐ乃ゐ乃ゐちよりおくを
うみれすぢかくれぬきれありきり
紀ぐ〻ぐ柏ふとをせくゐ給へ御かる
らいとさよ京ふこくしふれどそれくらま
たくゐ川院ゐ御ゐ給ふるあるゐ乃ゐんどかくの
日の宮人夜のをみ乃ゐ柳さくりよこれきるを
おとくてくうちへまいらもゐふまくゐ花の下
こ宮よりせ給て一枝をりてれかざ

さてせーさ弁うちうかでさ海行人ーー日
などハいとちうめでうくみしさ海ひりがこ
の夜よハ後歌ーめすらうすの法ちのかふハ
あぐ今ち後ち寺海さ法ち法でまいうせをきれふ
りてさのりあふべきなうハばうひうでまう
けてどの迷きを海也とち法のぬーのまぐ六位ふ
てぐーめて海いうう海ぐらけくけむけりとれ
いら迷たうれいひけのうちよれれりとく
とー言うがあやーさうさようき海ぎ迷ぬぐ
やをらかそめよあけてえ法れハきーのれ
とうハのぐまりを海れう人りふ事ハまこ
とありうりとあさまりくて人の孫よけるれり

ら
ふやち法らりいぐけあとち海よきー入て冷泉
院れ山ふとかちたうかぐが海くとびて
ちういめへどちへたりーー望ちハいみち
りーもれうかそ迷みで我ハう人せきり
とハれりえちうとなんうさられ宮う殺生ハと
りぐのみかせう後法事前迷どられてひげ
のむやくなりけとりりけむをあ武戸つれ
文ちと動れ足れ御むをあれうれ姫更圓
執院乃法時れ女法ふさいりう法て天延元年七月
十一日知ーきーせ法てりり川の中文とア
き足こむ海迷ち海ふず法りふき天延二年六月
二日うせ法ふきれとれ海ちくれりハ

いつなりをはるよがきいれ
小只奉ゝ
うゝらく又はうゝろみ
めをのはゆゝでいりをいみ
とゝいなりのさゝめて
いとゝられゝしばゝくれ
ゞ道さゝ後はをれ門をゞ
さいかゞもさいいをどれ
くゝなべてゞゞ楚れ
けとめさゝ後つゝうゝ
ゆくゝゝ道ゝりなゝ
後さゝのいゞさゝりゝて

たゞさなゝねいかゝゝ
とゝやじゞとゝ
きひとゝゝろのひめぎ
らゝ後ゝゝゝいゝ
乃御ゝ乃さゝぬゝれゝみ
ゝゝや又大臣者乃ゝさゝ
の左大臣とゝ長徳二年
ゝゝ四ゝゝゝ
ゝん治ゝ元年五月廿五
ゝゝゝゝゝゝゝ
はゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

いらゝ奉ゝいらゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

うみのせんたいれいれいこれのみやひろかるのみや
すのかはらそうそうそのほうそうふおとこ一人
女二人でれうまちまちまちまちとこ天ハ志げい京の
女房とそなたくいうそくよりかげえをもくて
ゆゑらひはしりどにようひさくれうゆ
すゆゑうれバかやおもゑしてうせはふき
女君ひとくらうハ一条院の御門のゐ者なれや
けとそれそ殿しうゑ院うせはてけちゑ殿ふ
ハためゑられ式アはのはれ
ふ方ゆてあまふのきんだちうみけゑけてれハ
すめりそのかのはまとちハうれ人ゑ殿し
めたらむかゑ宰相うせはてゑかゑあまふ

ありてれうまにゆ一ゑ
院のまふ式アはの文とうし
てまはら殿ふ人ふりてに系文ふまうせはく
ふうれしき事よれやゑくかど院て
なふせはふ娘ハゑれ殿のみうけゑ殿ら
せはてはゑ中ハうよう殿はあゑうちう殿はゑ
事ゑゑあうゑ女はもちくれゑもゆみゑう
れゑかけうしりどにはやまひあるなりよ
をはるやそゑみひはしゑりとれ二月中ふ
うせはよゑりみゑきものよなりてちくれゑ
ゑてううしありきはゑ月を院乃ふはよハ
孫よつふまゑゑらせはゑ
ゑれとうよゑ文うちあ

まさとちかなりすゑ　姉川の合戦の御次郎長
親のありあきこれ親王れいぜいめしたちの君
中宮の内ひとつゝよいたくゝ　ゑぞ志きハ又深
院方大ねあさこりとも　ゝ　しかしとおぼえ
うりしかたおぼえ　れとをべてゆみを
ん　あてかるさちもむもをくき
給へ　ゆおらいの内やなどおやのかうふを
らめよ給ふやかぐひはれすひさうの内くずをこれ
毎のあもひらしいぐ給へはかりなよが
乃給ふ　ゆうまつ給へ　こ乃やなく
ひをひ給へ　しハあさ月乃ひらりよあぐや
うてさ為りでたき事やハ給いとハめなき
ふたきバめがらうず人もおをひて給ぞか

て事ふれけてもちかやうふりてくさゑ
給へ　とのうせ給ふ　世の
中おとろへおどてはやまひをおもくて大将
もおぐ給てしらうちちあうしがふて
毎ぐ為大納言とぞ　しゑ　和奇などうう
いとうくあうぐ　もぐぼ十五めてうせ給
ふをふ方ゆも為れ門侍のうみのれりの志げ
あうの式アゆの文乃ゆ乃ひめざみぞれく
給しうその内ふうふおとこ君三人女君の
めぐ為くぐとゆるれくゑ　花ゆ院の内御は
さいうせ給て一月ぐうりいみぞう御めうせ給
しとりのはしてぎ御ふとふうあうきんまう

のゝりの事もとゝまりみのゝどもわらせ給
ふとたえて侍はみだるよみてきこえずなりぬ
はるゝ一二月さんらひはじめてちゝはゝおうぬ小
ちゝがはゝさまはさまりうしちとゝはあはれ
はかりちゝはゝどれよりつゝ孫おもずれたうけるて
れかりかゝ宮くゝ見給ふ侍ちくの大ねはせうとゝの
若きちいかゝいはれかしきんそれはひとけうう
のれとこ若三とあろ太郎えいりのせう中
納言ともはれ孫のつゝよれりうり人ておくく
れもそれ侍へめるこ二郎とあえいもりれうみか
はかゝどあてみかゝ家しはけうせ侍ゝうさこの
ゝりれ入道の御をのゝちゝ世今の右京乃大夫

五条

これ宮院の大納殿ハけちよハこ乃君遊れくく
をバさりてびハれた大納伝れゝみれつ乃うせ
侍みゝ乃ちそのうゝ色はれゝ老てうさちゝどつ
ろくれたゝ言ろうゝ事きこえ給ハ
ざりしとそゝ見侍しくふつゝ侍人はと
そ世人ゝ一さてをれかえもおとり侍ゝそ
うしとゝのへうゝ御うさちをゝとうしくく人
の行をやむゝとゝ侍ゝはゝ海ちくゝ梅うう
よれこゝすとてゝ歌ゝれゝ侍ゝ紙まうけてさり
侍みゝそうこれ今ゝ侍ゝ乃れゝとにハ女房
世人ゝりゝまかうをねさせえもいハをうう
ゝれてゝとなゝべてゝちゝらひゝりうを海ゝうも

延光

しゐてめでらくもてきてかしぐべきさまなど
もとうぶりをしたいねりてうまりはあるは
をは決おれらうみうげみてたきものおれやきよ
けりてはなどうちをきてきふ法はぞ法ば
あきてうふくぞきせ奉をはをびつしもはうは
乃もさげ女中とをんてさ海くくりくもをとち
きあらべてきりはは又はふきてみれうはむ
ものあわさい捨てぶもうは後えまから後絵孫
はふとれふはおやきあるれしもちまる女房
三四人中いぐきてうれれとりごもはむしり乃
とばあまくうよれしはかぐてで孫う後奉を絵
あまりなるはようはいおうしうもかぐおかうる乃

きはらひありさ海ぬ房乃ちうぞくおかどはかで
たれもとこ乃ぬ方は孫をいろのうあれまる
あはきふきはは中ぬうちきてぞれは
しきれそ四十よ中おうぬはをや
ぞりぞおうくれいろくくてひたはいふく
かぐさうちはきてうみちぐけまるまぞおうう
きるはかさちのなどをおりひちうてさ海う
あひまるさうぞくとれかをはあや海ちとは
そのちはうぞくちうかうさらまあひてみえれ
さぞうり乃人のぬ方とをたくをみしざりれ
どもとのぬをはあきうれ武アは乃文乃姫文
ちやうくをでんの門はは乃ちみれはりやむる

あき人とゝ申ぐ〻こちあり
りきゝてかゝ御人よ
あてまゐらせ侍ぬ人など
ありてかくりてつけあ
りきれるゆ屋むぐとあ
おそくれあくれ申されら
ぎたくゝとゆらしてあ
ありどもゝどろ乃ゆどを
らんいとおりうゆべ
やむぐと形くれくゝ
といふとも花きあゝぐや
屋いけいゝ方ゝやによ

とちおきき
ゝに侍やさぐゝ乃事
侍ゝやあやしの義ぐ
りんやいと思侍きどゝ
事形ゝ志ゝぐゝそやと
づかげゝ乃ゝぐゝ乃人
しくれば之れ乃ゝ
ゆるまひをせんゝと
ちれとぐゝあ屋乃屋
初んゝすぐゝて侍ゝ
え侍つまひくゝちそ
ゝゝと初ゝりゝ

れゝ形ゝえもたゝ
ゝに侍やさぐゝ乃事
侍ゝやあやしの義ぐ
りんやいと思侍きどゝ
事形ゝ志ゝぐゝそやと
づかげゝ乃ゝぐゝ乃人
しくれば之れ乃ゝ
ゆるまひをせんゝと
ちれとぐゝあ屋乃屋
初んゝすぐゝて侍ゝ
え侍つまひくゝちそ
ゝゝと初ゝりゝ

うをのけらとへれくゝ海さんとて牛うひ車で
ひなどすゝうかゝゝ車を取まとそおかやうま
それどさうふさまぐりきり山今の方うめらゝ
ざうきぐいぎんられ海ぐひかどよはうぞく
もりとらする事ハさかものあて月ぐとす
うけをいぐゝしてりゆ海あうを映いみぎさむ
ぐゝどもを三をあうれはけるやまくしるを
そ巻みいとあ屋ふかむなり屋ぐうきうを
うひのゆふ仕せてそ巻てうりてえれり海
はぐ宮をんを、それをとやゝ結ゆ、さを山大ねい
はかゆ　む　人もうをらも人よをくまてゆでくれ
そせ丶人也又ゆり川ぐ乃丶結ゆ大苑ゆ海さ

は

そりときてえ志がはむしをめ源浦屋乃郷かられ
さ乃者のはりゝ乃ぞうゝとゝの皇后文乃足
ゝ家屋とそうあらひ結ゆ今の方芸湯曾の
ゆ方ゆうかんづをれさ沢のうみの称さだれ文
楚ゝまゝ屋ゆ面の中納言とうやよたん
のゆゝハとれそりれて右京乃うみよ
てゆくせゝそれ右京乃うみのれるぞゝ今
乃仁和寺別寺是ゝゝ志んせい者ゆ平川屋の
はゝ人ゝぐうゝこのれゝすべてひうの
海ゆぞれりまゝ志ゝぐうを清たゝぶさう
屋れそゝ海を海東三源屋とゆ志ゆさとふ
うはれうさ位をとう奉ゆうゆ人ゝゝの

ふあらかるまつかぜ天道もあすうらずおかり
ものきんをそれ打りの乃れ門圓執筆おそらま
ちく東三條殿かくれかばけきのようをあのうる
ようえてなまつ行人つまかぐみのどのはう人まま
いかふ孫れとちまれかせら迷げ迷バ志ぐ牛
をれかりかげそう楚うかまつ川あくていロ迷
う映行ちんとてハ関白あとれいとこのうり
きくのれくくみぐゆつりあうようよ人りみお
き刻がこくく世ちまとまちぐけちひをはさあ
らひのいうやう東三条あひうきなどうりた
てまつらせ行やどのとこちとりとちう
うけ行ちりしかをのきがおかちをやいうの

殿れとおろれものあて行しかぐこ海うふう
け行ちりしハこれ殿きちのあよれとれ中
やしどろのはうふ信れれたりまさりのかどに
れ中あくてすぎう映行しあひだおを
川殿御所まひをもくかうせ行て今ちぐりま
てれくまちやどふ記人かの乃かるまされ
おりれとのそれバはまへ不以人うちれ迷ぐ
おどいふ行よ東三条殿大ねあいうせ行と人
のトくれバ殿きうせ行てぐ行ちあうりよ
うずしてをぐはるよ今ハかざをふあり角る
ときてとふらひとれつ行ちりて行
まへかるうれちさもれやりやまれたとれごうり

角ゝ而、初さぶくろひかどとして、いま奉らむとて
海ち給ふくやくをぞてうちへさいゝせ給ぬと
人れゝよりわさまくしくむうくておまへよりは
くくを始てが海しく杉のふらんかうたらば、
関白おとゝゆゞるゝとなどゝさんと思ひ例
海よりまぐちうとゝぎろかゝひらうで
をぶつまわさまくやすゝぬ事ありとて、
かぎりのさ海ゆくうゝ給人乃かれおこせと
乃給へどんどおあ所とおりよりなどに車ゆうう
ぎくせちはおもちかせとおかせゝ海まを拾れ
けうを給へなくうけしむをかくておかせら
海くふくおやちく見奉海給はゝ所よりよ

せてさうぞくなどせうゝ給てうちへさいゝせ
給く陣乃うちをさんだちまりてたきぐち
かぢんれかるうちはおのへまのらを給てうんめ
いちんのさちぐ乃りとにさしいぐう給へ海
よひのはざよ条三条大ねはおよひ給かどなり
ゝうこれ大ねあハ堀川あ所すでようせう給ぬ
とれう要給てうちみ関白乃事ゝさんと思ひ
給てこれ殿れ門をとをあくさりてゝ奉海給
ふかは川あ乃めとけぐらゝよさいぐ給へ海
ゝみかどを大ねもゝとあさ海くれかゝめ
すゝ大将ハうちはるまくてゝ寄ておふ殿ゝ乃
さよはくしねに関白あ海まへ海ぬ井給て海

きとのありくてさいぐ其除目とこなひよ
さのりおくなりとて花人駆めて開白よハ
執柄乃おとゝ東三条殿のおとゝをとりて小一条乃
なりとされ中納云と大おゝ殿より宣
旨下して東三条殿をハ伝新院小ゐきえ
ていくさ奏ゐてかど明くうせ給しそうか
いぢみておくゑ奏しあ殿めくさどうゐりゐ小
おくせしよ称たさようちよまのりてアさ奏
ゐ新ゐと人もんてもおうりし事ぞう
されハ東三源殿ゆかさとうゐ事もひたゆか
うかは川殿乃ひゐうゐ乃門ゐ母を伝らず
のゆへハかくゐう開白ハ伝次第乃まゝよといふ

ゐ内みゐおがゐ志めりしうゐ門ゐ
とうゐ給人伝もさいごゐおがゐ
世給人伝ゐ母思ひ伝伝小ゐ
ゐまゝ宮う殿也（これハ堀川の御所の事なり）
一太政大臣殿光乃おとゝ
光九条殿のれ九郎兵大臣伝
おとゝとゐしうゐ西暦三年六月十六日ゐうせ給
ゐ年五十一乃ちれれいうれ恒徳公とゐ
ゐまれとこ七人ゐ君五人ゐ
ゐ殿さし長給ゐの御いもう
ゐ殿乃門むをあれそうよ海と
ゐられ伝母みゐあうゐ

第一とあるハ、花山院の内侍乃ぬれいみぢうと
きよおく殿しなどに、ものがたりとゆ物がたりやけ
おゆてう殿物がたり今一とあるハ入道中納云の
ゆ方ゆてう世物がたりよ男えたゆ御門譽さ
れぶときこえさ殿しこ十八ゆくゆくゆ物
してう世物ゆ物ありさゆハいとゆさゆりう
志事ぞうし人ゆこゑらゆ道ういゆ見るゆと
ハさ乃みゆうゆくゆくゆゆゆりざなうゆされべき
ゆうハゆう宮めゆゆ寧相納云ゆゆくする
と爲ゆハ人ぐうよゆりえのれとうゆへまで
ゆや大納言ゆくさハゆりまもゆうまなんとれ
ゆてゆりとゆいめりゆひて代ゆび乃大納云

乃でみゆ物がゆもくゆゆゆ物ゆべきなりときこえ
ゆけ道ぐゆぞう殿れ御ゆゆハさうゆゆりゆん
ゆてかくゆゆかせうゆ道きんゆハゆれゆとゆう
ずとゆ物ゆれゆゆ物ゆてうゆゆゆみ
ぞうゆ物みゆよゆぬなどうゆやれうきん入道
爲これれくくゆそそこゆされぬゆれ物ゆ
けきゆ尤源門譽乃ゆさゆれゆれぐいかぐいと志殿
くぐゆゆ物きゆとうれゆ源門譽ハえなり志
ゆそこゆさうずハうと人ゆうハなるべうゆ道
とゆの物ゆれゆれバゆ乃尤源門譽まうりゆるま
ぐくハゆりうゆうゆ爲きなりとゆ物へぐゆ
かくゆらんゆや人ハいゆのでうとそなり物ゆ

をいうふ月まうむうひてあれまづきよりを
りびてうりうるぞとれがすりいとぐあく
ちんれあてちもくれあたりてをけよく
よぎりて月まをあぐのふみちあのあ月まつ
ままあり幾といひりて拙もよりうずうりぶ
ちくれ人はやどにやまひづきて七月といふ
ようせれいはあぎまたうひたりをはあよび
くあまりりちくてうをてりちとはくいぐく
れ人をそれりみぎきよごすてでれ人ーこ
乃開白あれひとくせの除時宿はあまりちひく
れ社てねあぐうたちもあへれはでもりつあ
れ人郭はあううう名のもりをはがかあ多あ梁

府の法屏風がうまとそこおれた的をこれ大
納言はあり行人はいはいつ乃中文大史多ぐ乃
ぶりりりとよれがえありうちきんあてあちうき
よ拙中将みちれぶりきみりみぎき和方乃上
手あてひあくきんはいくれれ行ぐにうひ行
てきよきぐ今の左衛門督きんれふのは又法
住寺の僧都のきえあさなりの君おりすはちと
一条摂政あの法ひをありうりあ乃君ぎちこは
血乃はあれうーはと三のはこの方はたかりかさど
乃くうをとて尼はありておちまれはりは方
はいりれ入道あ乃ぞくるれそはをあ乃
れるうみてうはれれれれ立君く今れ皇后文て

さらにせいこれはとぐぶのはあるさまかくせ
ぐ一法住寺をぞいとゆめうとさてさ
せ給人は摂政関白せさせ給はぬ人れは志はさ
あてはいとまうおるうはれはいとやむごと
ゆゆしかりしかどれはせ給かそうず
一大臣大将さんぎ清乃れとぐ乃家院の
れとぐゆれたうまれ兄九条殿乃十一郎小方れ文
ぐうれたりますはみ乃ゆをぞ小方ゆていた
そうまうさせはそうるゆ君一とあるれとこ
弘 元ふたとあるゆ元い一条院乃はれ殿の
ゆは今はるうゆとれとこ一人は三昧僧ゆ
源とせうゆ小さ今一とあるのゆとこ君は

只今の右衛門督さゆなりのはめぞおくするば
あの御子ぐうゆのうみ源改乃むをあのうう
小女君二面れとこ一人ありうゆを大姫元は今
乃中文れ檜大殿乃はれ方今一とあるゆ源大
納云とうかるの御兄氏アはとうれ君のれ方ゆく
れぞ今のれ中ゆあうれ太改大
ぞれうすめ面れとこ君とは御れれ太改大
臣ゆがはゆみ女ゆ公成とは宮ゆゆは
はうせ給人は兄人駆ゆていれれがえあと
ゆれうすは元小なんこれ太改大殿のれ有
さゆうくあうみのどきされゆくせれうれこれ
あゆされかとれくはうくゆは延乗乃れ門の

女はは如何（女房康子）文ときこえさせ給へ延喜のみかどの時の
うへにもひ奉らせ給へるを御はらの屏風に
公忠弁ゆきあつでとよむ人これ文字
はらゆきおどあまふようえんて仰かがら人て
ようてそぐ也乃くちうの給へ（うへ）さよ朱雀院ひう
うみ二代の君うどのひとに代れそうれいもうと
みかそうます（うへ）さそうちずみしそうばるき（うへ）れ
ちまうくを九条殿れ女房をうらひて見そ
うふさいうせ給へうしぞうよ乃人びのき
事よたひうみそあらぶもやすうぬ事
ようがめうへうきゆうくれどいろいで
とがめおかやうき（す）ふりめうもこれ九条殿乃は

おがえのうばうの給へみうさてまうんぐうち
はうがめきうをあをさうめさぬなどあめれ
どろくちくあうりうみなりうめうを月これ
文うちはおりまうすよ殿されくぐ宮の文の御方
よういきおそろくたがうめすらんとおかせ
ととあれバれきもさうり給よ如文乃れとぐ
そかうさいうせしハれ海へ乃きたのきみと
ぶやさ給へ乃ちみうりはうおがめあ
ち殿けめさてあよ海うでうう殿奉ちく思ひう
づ（ら）ちうそまうら殿給とう乃をバさうなりやさ海
やどにこ乃た殿大臣をハらみ奉卍たまくうみ
ちうもれうくみがそくおがえうち殿乃海れバ海

ろハさらてあれまゝ
ゆゝしきなんを
孫人ちと君よ孫ふきてえさ
ぐれバ
たとき
かゝ
ねたつ
待ぞ
る法
れかり
ひふか
たよハ
らけふ

ろハさらてあれまゝゆゝしきなんを
孫人ちと君よ孫ふきてえさ
ぐれバ
たとき
かゝ
ねたつ
待ぞ
る法
れかり
ひふか
たよハ
らけふ

ら
ハ
日
と
ハ
ひ
き
ハ
ハ
ひ
き
ハ
中
ハ
乃
も
せ

ら
ハ
日
と
ハ
ひ
き
ハ
ハ
ひ
き
ハ
中
ハ
乃
も
せ

ぜきりて明りょうせられよ、はものめすれたいの
たけだけしくをゞしすがたとうやうをけだめ
よ云ひき事ふハせうやうをかむりハ足こ
きらはれさはくおそ海をなどハうちずみせ
うなる事かうきをはしこれうの君のりくて
さうねちうせられハあるまゞき事とそうをり
せどかくておひあ事なられハべての殿上
人などよりおそうやうべきおとゝ孫どけうれ
りう海ゆをのぼうはたはふまなどハかゞ
めをかみくふねうまはしなりハ圓教
院はれあゞりどうれたりとたりふるや
かくらであるゞやかどぞうめうせられをかり

ばかりどにはやしけもらせてみはもりとれた
中ねる成君をおとれかうふうなりうりて
門ものはれ車乃ろうまくせうやはねうりハ
まいりせらるゞされべきあとれりもこれ
えをそくさうりくうりうをとれりもこれ
さうりまいらせうそまらそうせうへまで
見なるうりうへんくてハあくせうへるとりさ
せうへハいねるりうはせとそれかせうまをる
ゑ量壽院は金堂伝養ようを文ハ啓あるはは車みは
うやうはてひとみちる成れがしめやうはたくれ
なるれ啓せうやうはもれあくれれるものう
れくうんあり云とうう文おかせうまれ

志ぎさがめいのむをあれ、中務乃めのとしより
に伯耆ほうでうてかたりて世話中（後賢門院）将顕基
乃君れいけいの君れいとうあれいのをば四条
ふるさとしきえて太政大臣
くれれは行かたの右衛門督ぞいきこえ行人
伯耆ほこの乃の天のあさ行人ぐまいかくもむ
げかりぬるいりなまぐかりらんと右衛門督た
ちねかぐさめ宮し行くれはものげうちこい
さうはあまぬ海ともうありうとたは大臣
夏の行くせきれふらうくまりうくれ
みかをとれ行よくれ中あをは伯かね隆国
君は沈孫よ思ひいてぐそりよわひ給なる

うやうあるうよこだいはそれうまれべき
ひうの乃御童名は文を君とうはうきう
一大政大臣兼家乃御うう
光九条殿の三郎君東三條殿
す御母一條摂政みおあ冷泉院圓融院の御を
ぢ一条院三条院乃御行ぢ東三条女院贈皇后
宮乃御父ぢはあくは年大臣位十二年せをら
せ給ぞうくて五年ぞなりうと海と正暦元年七
月二日うあう御行ふ御年六十二おあ歳せう行
行てしかぐ乃ちれは入みかううちよさい
らう御行はいさらなり牛車ふくわ傅まぐいう殿
行くバそきうちいかあはばりの行あう孫

どひもとれていらせたまふ
もうすまひのれう東えれれとうれハさて
ところの御衣てう なふをもあつてれあせ
とうだうりうすてうあらち映画るちうよたた
ぐひのくやむごやの代事前迄も寄ひもわ方
もあちこ海ひぐとうれハれとこど見あく東三
源義の西村を清源殿ひ
そうめてすませ給ひどうをうはまりれうち事ふ
人ひりしなぐ城ぐくん ふあつせ給ぬまで御
果報のれよど映画ハぬあやさやうの代見ちら
てひさくハたも女殿給ハぬともちぐめ
りうそのひどハ義とうさもひんあぐもりこ

ぐをれどもの御ぞよ堀川の橋殿のくわ
御時よりれ東三条殿ハ御ひりうさともとめ
られうれ給ていとうくあうう海ちう時よ人
の義ふう乃堀川院ちりやをれかくひんぐさ
海よいはをいかなるそとみれば東三条よれ
ちねと見をりようぐど思ひきてえう映画人
はうさうりやれう映画ハくあきちとおらん
と思ひてとのあをトクれハれう迄て義とれ
よとう映画れハいみぐうちうきは義世世乃中
のとれ女ようひ見くおの乃とのくん人のさあぐう
海いはべきがみしあうなりとトを海ぐあてさ
らざりしそとうみそれまろあきかんあぐ

侍きかものゝふの家のけりうせ給とそふしてノ
みもれなかしかしうち畑し乃ことゝそぞよひ
とし川家て侍し大入道殿めしても乃ときを仕給け
御ありしいとしうしとくりけ連ハさらしあたりなる
事すゝみしうさとてもみなさい梅ちにあまそ
ちろれかしめしを浦よりぬを仕給こともの
いくられまくにハれちしく母ハ法乃うそくた
てまうり法うりせさ候給て法ひざふたく
ら継さ候てぞ乃ハとを仕字りそれふ一事
としてのちくれちとやあやまさりろさ
やうまちかくめしをするふゆふうひなれかど
れもの母をあるですまし給りし経風所ハ母て

流
ら
ありけるこの座法眞院よおもしまだきことぞ
あ給ようろぬところと人ハうけ申けげ思ひ
どいみおぼうけうぜさ候給てさてもい拵でわき
らせ給てかどかくうせ給よまれをし御しまき
給もれいみれおりわさらせ給りんとそれそし
ましてハいかゞあれと給うをせさ候おり
おしてその無ひおこねん母て給や御ひけ給そ
うせさ候給人御ぞりしむまや乃馬不し給ぞい
じんせてあるさぢへ給ちしきるがある
ハ本ちらくとみ面御おどおもしき事不
おかせら連て月乃あかぶちハゆうらしもせ
であがめさ候山れまめよみえぬ哉のぐらく

とまりまゐらせたりけれバ、さらにふかくぞハ
たらきハけど后ハ此中おどろかせ給ハでハま
くらがみなるたちをひきぬかせ給て月ころと
てあけくれ給ひうし給ハずハなほ御はなれすらぞ
いとびなしとのやうにあげまゐらせさせずハ
あしかりなんとおもほせりまゐらせ給ひてまゐ
まゐらせなどおもひかけたちぬ事どもを待
たりさそ給ひよとのむすめ乃御をもくてかくは
ともよハまさぬ給ふ人御ならめまゐらせ給ひけれ君
遊女君よとおもふれとこ君五人おはしましき女
二所おとこ三所五所ハ権大納言のうみ参原中尹れ
ねしの御むすめ乃まうけおはしましし三条院の

御母は贈皇后宮と女院大臣三人ぞおはしましける御
母ハうちにおはしましけれバいまだおさなくおはしまし
おはしまし二条の大臣はいでゝゆうけとの給ひ
けれバ、宮がみなおなじまし女の宮ハ一人ゆ
くがすぢとゞまり給ひてなほわざとしたまふ人ぞ
あし給ひけとの給ふ何事なりともおぼさん
おやうちかへてこのおぼゆるおぼえなくたまふ
ともさうへ給ふ人なとうらやみかけてもさう
りよろしき人におほくでこれべきものゝためし
母てまゐる御せ給ひけめ女君一人ハ女
院の后乃宮にはなれましまして乃宣旨にて
おはしき又封乃御方ときこえしおはしまし

東三条 かねいへおとゞ

御子

そめいみぞうかあしうしゝ給て十一
よおとゝ殿しおとりおいたゞうみよりなを
給てうちずみせさせ給あてまいらせ給かる
らいとうりうてゝ十一十二乃かど
はいしとうりうめけ命のやうあてゝいとゝあてゝ
おうゝ内侍ばあとゝとくこ三条院れ東宮あて御
元服せさせ給しの乃はそひがゝ申さいるせ給て
三条院もあくかうぬものふれがゝめゝなりこ
ゑいとあつて月わたら給へ御おぼうひ
をとらせたまくこ迄三ぞしもち給たまをを
ゝもひ給くいとハといハぶらんゝりハを
きかとてゝうゝ殿ゝし給てはらゝれば内

ゝとふうこのくろひまでもうち給ひたりけ
きさりとも出ぐし給あらんと思ひ出よあゝれ
ゝとぎてうとゝ内くゝうゝかゝえゝかとゝう
院ハおゝせられれあやきゝとを源宰相中
宮のきみからひ給とよたゝなてさとにいく給
ゝさうゝそゝあうずおりすとうこ三条院きう
給給てこれ入道殿ゝさ内ゝ事乃あゝれハ海こ
とゝやあらんとゝおゝせられれば海うてみ
てゝいらんとて給うたりれば参いあうぞ
あやゝくおゝぐて本丁引ふよせ給きをを
やら殿給へれぞとくかあるうちて
いみぞうけさうし給へきぞ殿ゝ給ゝもうけく

ものうはるふさうく
おかせられつゝ八幡奉ぜよりはる世そう
ぎとにをかくせんみ
がいとねびん旬ゝバとそれむ祢をむさあけさ
せおそちをひ祢ゝ世おんゝ世ゝバはうかよはう
とくゝをかくゝ海をのうゝもかくゝもの行せでや
がてをくゝ世おぬ東文よりいゝ世おそ海ゝに
ひ宮うとて志おはるありさ海を皆ぜうゝ海
ゝをきさすがふくゝむらおくゝうおがゝ行ゝ
なゝ世おん海は中なゝをあやいとをぎふ
ちうれが行ゝをりれおいゝのうみハと
のうんらゝ世おてのちうおひとやゝなゝぬはむが

かうゝいみえうのゝさおきりとそのおの足奉ゝ
ゝたるんかゝゝ世おゝ東文ようゝひらひおゝ
ゝども宰相ハうよひまゝうおちとあまりとと
いでゝちうを文もさうめゝてたちしさどを
ゝてけさ海やひ海ゝあとあとゝ思ひちうとねおゝ
のあとゝ行ゝ海あとあをいゝとゝとをゝうゝ
おゝさもせおゝうゝとゝとをおかせら世ゝうゝれ
れあやをちうり源宰相三条院のは時ハ殿上を
志おハでハ地下ハかんゝうめあておゝ海ゝ
ふこのは時ふちうハ殿上ゝけびねゝ乃別
奇なゝよなりてう行ゝかゝいゝひとつはは
うゝ乃おかいぎみゝ冷泉院はゝ女はあて三条院

彈正宮帥宮の御母まして三条院位はしませ
ども太政大臣の贈皇后とまうさせたまふの三人の宮たち
をばかぐらのもとれなかよりうまれ給
き世の中ふそうのもとにもいでおはしまさ
ぬもねたしと思ひまいらせ給ひて
ちのとれどうれあるべきなりをう
ちのけうさまはさいきこえ給ひ我はうん
とう地位せうきを形といふうち石の御常
ハ三条院よりうハそまいらせ給へきかとの
うちよりとくまうるとうきみれさして
自然ふかく世なりこのはハ一品宮ふとまう
げ給へこの宮乃内れ乃宮乃ちれす

ふ極くまうまれたうち御乃宮乃まうり
のうへさ和泉式部とあひれらせ給て帥らんせ
しさ御もとけうありうきやかは車れられ
すだきと中ううちうせ給てうのは方とばた
ううあけさ侍式アの乃かるをでおろしてきぬ
あぐうてうさせてそれか井れそう御よあかよ
ちきしれものひとひろきけけてけちとひと
ちううげらきたううぐふでもの乃ちうり
ハそきをちう人見るうりうちう彈正宮乃りハ
まおそう御ちて時乃御かさちのうけうけさ
ハくうりとちうすうのやくとちうハみしう侍
御しよ御元服おとのの事乃かうふせう給侍

みをやられ文きちハれむ乃すうゝろくな
ゝ海とちう一条のとものぐうけ申さゝ給ハ
ざり三ゝぐされべきもとの乃れうなんどこゝのみ
じりてうゝづゝかゝさゝ殿御文一条院れ内
時の御使文ゝまいらせ給しゝかどふハ御おな
どうるべき人おやくていとちうめでたうてゝ
いゝ世給めつゝがれおみて御ちうけ乃いたう
せめさゝ殿給るゝいちもたびていとゝえゝが
たうもゝまゝくれバこれ入道殿ゝかくゝと紀
こえゝさゝ殿給て鬼間ゝゝまゝてゝ御ちうけ
をひきねぎ奉ら殿給へ申ゝくれバ
ら世給へ申ゝくれ贈給れれひとゝ御ちうの

ひゝちうのひめぎみハ圓融院の御時むめ
がの女御とゝて一乃ゝこゝ迷給へ申きその
みこ五ゝく東文ゝ世給ひ七ゝて位ゝ給
ぬ七月五日ゝ母ゝ御どの寛和二年ひのえい
みのどを一条院とゝきこえ母后入道せさ給て
太上天皇とひとゝきこえ殿ゝ殿ときこえさ殿
き一天下をおゝまゝてゝ内ちうこゝ乃
ちうゝれ太政の元女院乃ちひとつゝの
道隆の御ゝ門大殿ゝて関白せさ殿給さ殿
君ハ懐奥ち倫寧ゝ乃女れりゝ殿
君なりみちけなときこえさ殿て大納言まで

まく右大将のけはひうりさこの母君きハめ
和歌乃上手ふれバこの東三条どの
我こそ
かれありかてめぐりあうれ日記とかけてよたひ
ろめ給へ
とそくあけくれバ毎びくれとうそそいひ
いまこそ給よ女房
おけれくひとうめる歌乃あらそ
いの小ものさきをのとりて
いと宋うありとおがて
をふや宋ふを乃夜ねるまきれとも
とそくあらそくそ

されバ
文傳よりなり給て
ありもくて大将をもぎ
乃どの乃ぬ乃ぬ
ぎ給てもとき給へ
園
納云殿ハ寛仁元年十月十三日
ふう世給よ
入乃殿乃ハ三郎
乃給アの捕者とそ
いをせでやみ給ぬ
の入乃どのまたり

君でこの道緒つ婚よハ
とのとそやめりしいと
れ殿今乃入
君宰相中将道綱乃命
園梁さハめたる和歌乃乃上手
文大
六日
六十六とそ奉り大
ハたどの又ハ郎ハかうぞう
なれしものすてよりら
ぞ給五郎兵衛尉
乃ハ母ハ方の

りの君達、只とあるはかりあうさ海ゝ作らむ昭
宣公乃はさ人だち、三平とし宮しかもとめつるよ
仏三とあるをバ、三道とやらはれ人ゝきんえあり
ゆ給らるるもずとて、わりくちん

内閣文庫
昌平坂学問所
浅草文庫
五十二枚

国立公文書館
National Archives of Japan